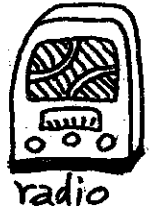


※インターネット「はらまち九条の会」で、「九条はらまち」の全文を見ることができます。

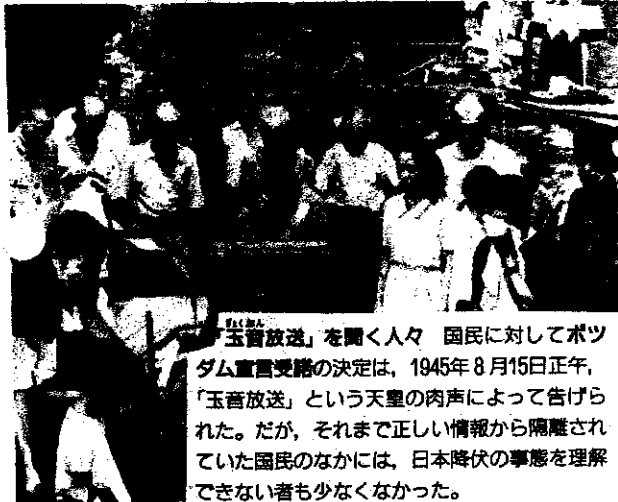


九条はらまち

「はらまち九条の会」ニュース No. 7 3
2008(平成20)年8月15日(金)発行

＜1945年8月15日、日本がポツダム宣言を受諾し、無条件降伏、終戦記念日＞

7月26日、米英中三国はポツダム宣言を発表し、日本に降伏をよびかけた。しかし日本の鈴木貫太郎首相はこれを「黙殺」し、連合国は「拒否」したとうけとり、原爆投下、ソ連参戦に追い込まれた。そして、8月15日、「ただいまより重大な放送があります。」・・・正午の時報と同時に、ラジオからアナウンサーの緊張した声が流れ、みな固唾をのんで集まっていた。やがて昭和天皇の独特のイントネーションの音が聞こえてきた。日本が敗れたことだけは理解し、張りつめていた気持ちが一挙にゆるんで、みな放心状態になったという。



「玉音放送」を聞く人々 国民に対してポツダム宣言受諾の決定は、1945年8月15日正午、「玉音放送」という天皇の肉声によって告げられた。だが、それまで正しい情報から隔離されていた国民のなかには、日本降伏の事態を理解できない者も少なくなかった。

勤労動員先の横浜ではじめて玉音放送を聞く

昭和二十年八月十五日の朝、緊急集會席上、生まれてはじめて「玉音放送」を聞いた。音声はときれ気味で不鮮明だが「大東亜戦争」が終わったことを報じていた。周囲の者から嗚咽がもれてきた。幼い中学生はつられて泣いた。横須賀海軍航空技術廠金沢八景支廠に「勤労動員」されていた私たち相馬中学三年生二七〇余名(昭和19・10・17、20・8・19)は、即刻逗子駅から貨物列車で二泊三日、東北本線經由



八月十五日

鹿島区鹿島 但野博貞

で帰郷できた。

寮から駅までの途中に海軍下士官の猛者が、荷物を背負った親子づれに毒づいていた。いっどの列車で帰れるのやら混雑しているホームでは教師の注意も聞かずに非常用のコンペパン入り段ボール箱を破壊するやら餓鬼になっていたようだった。

間もなく元の学業生活に戻るが、一年上の先輩は全員四年卒業。我々は四年卒と五年卒と新制高一卒と二回に

▲終戦を告げる「玉音放送」のようす。(東京書籍発行『図説日本史』よりコピー)



▲横浜市の京浜急行京急磯崎駅のトンネル。南原さんと菊地さんはここで米軍の爆撃におい死亡。
▼母校相馬中学校での2人の慰霊祭。(現在の相馬高校講堂。写真は相馬中学校四五六会発行の『勤員五十周年記念誌・白山道』より)



母校での慰霊祭

わたって卒業している。因みに同級会の名称は「四五六会」、訛って「スゴロクカイ」と読む。
「学徒動員」中の横浜で殉死された同級生の二君の霊に弔慰を捧げます。
故 南原文夫君(真野)
故 菊地 了君(坂元) 合掌
昭和五十二年頃、この両君の三十三回忌をやるうと同級生で菊地君の母親(五人の息子さん)の四人が戦死)を訪ねると、「了(さとし)も生きていれば、皆さんのような歳になっていたのに」と泣かれてしまい、一同で涙した。
終戦から六十三年、何年経っても勤労動員生の誰もが生涯忘れられない悲惨な「大東亜戦争」であった。
(はらまち九条の会 会員)

※「大東亜戦争」は戦争中の呼称でしたが、戦後は「太平洋戦争」とよび、現在ではアジア諸民族への侵略と対英米戦争の二面性を持つという意味で、「アジア・太平洋戦争」という呼称が使われるようになってきました。

日本兵がいなかった唯一の攻撃をうけなかった沖縄の「前島」

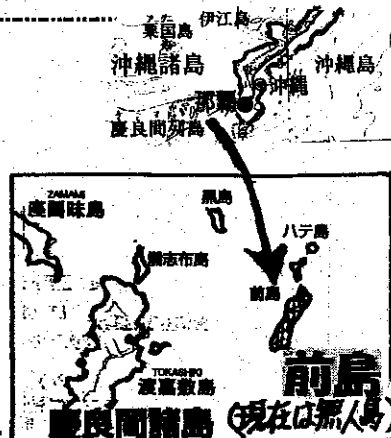
知られていない沖縄戦での実話 <無防備地域運動の提唱者 故・林茂夫氏の紹介>

●軍隊がないという「無防備」が、逆に住民の安全を守り集団自決も起こらなかったという実例

【沖縄の渡嘉敷島のなかの「前島」という島では、警備にきた日本兵の駐屯を断ったことによって戦禍をまぬがれています。「前島」には、上海事変に従軍したことのある分校長がいて、上海事変の経験から『兵がいなければ相手方の兵隊は加害しない』と考えていたので日本兵の駐屯を断った。やがて米軍が上陸、島中を調査して日本軍がないことがわかると、「この島には砲撃をくわえないし、捕虜もとらない。安心していつものとおり生活をしなさい」とスピーカーで放送して引き揚げます。

沖縄では、虐殺や集団自決などの悲惨なケースが各所にたくさんあったわけですから、「前島」だけが攻撃をうけず生きのびたということが、逆にタブーのようになって、ほんの最近まで公になりませんでした。】

(インターネット「無防備地域直言って何?」より)



●南相馬市でも「無防備地域(都市)宣言」を考えてみてはどうでしょう。

昨年10月、福島市での井上ひさし講演会でも、「無防備地域(都市)宣言」のお話がありました。(『九条はらまち』No.41 ●慶)「軍隊がいて、軍事施設があること」がかえって敵の攻撃目標になり、旧日本兵が「住民を守ってくれないで逆に脅威になったり、集団自決を強制する」ことになりました。沖縄戦でのこの「前島」は、一種の無防備地域となり、それで住民の命が守られたのです。「はらまち九条の会」の今後の活動の一つとして、市民の請願を集めて南相馬市議会に提出など、目下研究調査中です!

08月6日広島原爆投下の日には午前8時15分に、9日長崎原爆投下の日には午前11時2分、15日の終戦記念日には正午に、南相馬市役所ではサイレンを鳴らすので「平和の祈念を」と市政だよりで市民に呼びかけています。でも今年の「9日長崎原爆投下の日サイレン」は鳴りませんでした。どうしたのでしょうか?

9月9日(火)
9時9分
 (午前でも午後でも、両方でも)
全国一斉
「九条を世界に！」
の行動を起こそう!

- 昨年、『戦争をしないための選択・9条を考える道南の会(北海道・函館)』から全国への呼びかけが始まった運動です。
- 9月9日、9時9分、私たちも「9条」を市民にアピールするため、アイデアを出して何かユーモアのある楽しい形で、目立つこと、分かり易いこと、お金がかからない、誰にでもできることでまわりに呼びかけましょう。お隣さんに一言でも。
- 国家権力や政府など大きな力に対して、私たちは同じ力で対抗しても負けてしまいます。弱々しく細々とした蜘蛛の糸のように途切れてしまいがちな活動でも、継続して粘り強く、執拗に活動を続けていけば、やがて目に見えるかとも知れません。



お薦めの新刊 **世界には軍隊のない国が二十七カ国もあります**

軍隊のない国家 27の国々と人びと

前田朗 著

1995円(税込み)
 四六判/272頁

著者は3年間、私費八百万円をかけて、軍隊廃止の二十七カ国を訪ねた。日本はそれらの国々から「外交能力の高さ」を学び、経済力や軍事力を背景にした外交でなく、「憲法九条を生かせ」と主張していきます。

世界には「軍隊のない国家」が27カ国ある。それらの国々はなぜ、どのように軍隊を持たなくなったのか。本書は3年間で27カ国を訪ね歩いた記録である。ミクロネシア、ポリネシア、メラネシア、インド洋、ヨーロッパ、中米・カリブ海。世界と日本の平和について考える人たちに。理想としてはなく、現実の軍隊のない世界へようこそ!

日本評論社

〒170-8474 東京都豊島区南大塚3-12-4
 ☎03-3967-8621 FAX03-3967-8590
<http://www.nippyo.co.jp>